

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700335		
法人名	株式会社 一条		
事業所名	グループホームほろむい (えがお荘)		
所在地	岩見沢市幌向北2条1丁目611-127		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kan\\_i=true&JigvosyoCd=0175700335-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan_i=true&JigvosyoCd=0175700335-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和2年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内の生活もご家族のご協力と職員の良いチームケアを基盤に自分らしく安心・安全な生活を提供している。また、外出行事にも率先的に出掛け、季節に合わせた外出ツアー・町内会に加入し、地域での花壇の手入れやゴミ拾い・催し物に積極的に参加し、入居者様の思い出に残る生活を提供している。防火体制万全で全館オール電化であり、スプリンクラー・緊急通報装置・火災報知機等の設置、カーテン・絨毯等の防災対策もしている。また、年2回の全体避難訓練も消防職員立会いのもと、日中・夜間を想定して行い、各ユニットにて自主避難訓練も行なっている。看護師1名・准看護師3名を配置して、介護職員と連携して日常的な体調管理や緊急の対応も協力医療機関との連携を取り対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から18年目を迎える事業所はJR幌向駅から徒歩10分程の閑静な住宅街に位置し、デイサービスを併設する3ユニットの事業所です。同敷地内には系列グループホームと訪問介護、居宅介護支援の事業所もあり、幌向地区の高齢者介護支援の中核を担っています。系列各事業所とは連携を密にし、災害時や急変時の迅速な対応、健康面・身体機能の相談や指導、季節行事の合同開催など、包括的なケアサービスの提供に努めています。コロナ禍で外出や面会の制限など生活の変化による利用者のストレス軽減のために、職員は飽きさせないレク等を工夫して楽しみの多い生活の提供に熱心に取り組んでいます。特に、おやつレクや調理レクでは食事一連の作業を共に行いコミュニケーションを図るとともに利用者の食への関心と自立に繋げ、達成感や満足感が得られるよう支援しています。事業所は看取りに関する詳細な指針を作成し、複数の看護師職員の配置や協力医療機関との連携体制を整え、本人、家族等の希望に沿って、その人らしく最後の時を迎えられるよう終末期支援に取り組んでいます。代表者は職員の自発性に期待し指導を進め、個性や能力育成を重視するとともに知識やケア技術向上の意欲を引き出せるよう配慮しています。グループホーム2事業所が互いの情報を共有する機会を毎朝設けたり、3ユニットそれぞれが目標を掲げ理念の実践に繋げるなど、常にケアの高みを模索し、良好なチームワークのもと、利用者本位のケアサービスに努め、家庭的な団らん場を作り上げています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらい				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらい				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらい				2 職員の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 職員の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらい				2 利用者の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 利用者の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらい				2 家族等の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族等の1/3くらい
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらい				
			3 利用者の1/3くらい				
			4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践に努めている	定期的会議において理念を中心に考え、新しい職員の方にもオリエンテーションの中で理念について説明している。毎月、理念の体現について話し合いの場を設けている。	法人理念を基軸に、毎月ユニット毎に目標を掲げ、理念の具現化に努めています。玄関やパンフレットに明示し、入社時を始め各種会議でも理念を踏まえた基本姿勢を伝えています。特に理念体現シートの作成を職員に提案してケアの振り返りに生かし、意識付けを行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、コロナウイルスの影響下ではあるが定期的な草刈りや花壇の手入れなどに率先して参加し地域の方と交流を図っている。	例年では、ボランティアや児童会館の子供達の訪問、町内会の運動への参加などで利用者はふれあいを楽しんでいます。今年度はコロナ禍で面会や外出を自粛しており、唯一、町内の草刈りや花壇の手入れに代表者が参加し地元の活動に協賛しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響により、施設職員のみで運営推進会議を開催していますが、グループホームの活動内容等を運営推進委員・ご家族に配布し理解して頂けるよう努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解をして頂けるよう議題を設けています。また、定期的に町内会向けにお便りを配布し、グループホームの活動内容について理解して頂けるよう努めている。	例年は、町内会長、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て定期的に開催しています。今年度は外部メンバーの参加を募ることは難しいため、系列事業所職員と合同で事業所活動等を話し合い運営に生かしています。議事録はメンバー、全家族に配布し共有を図っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域に根ざしたグループホームのあり方、災害時などの協力体制についてご家族・市関係者・町内会の役員の方などに参加して頂き、意見交換や実践への取組を行っている。	運営上の疑問や課題等の確認は主に代表者が行い、各種提出書類も担当窓口へ持参し関わりを深めています。生活保護担当者の来訪や認定更新時には介護支援専門員が立ち合い連携が図られています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1度のペースで身体拘束委員会を開催し、身体拘束を行わないケアを話し合い全職員が身体拘束についてのケアマニュアルを基本とし支援を行なっている。	法人全体で指針及びマニュアルを整備し、委員会を定期的に開催しています。ユニット毎に内部研修を行い委員会での内容を共有し、身体拘束適正化に向けて正しい理解に繋げています。不適切な言葉遣いには、都度管理者が指導しています。居室内センサーの設置には、入居時に家族の同意を得て使用しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1度のペースで虐待防止委員会を開催し、各ユニットで行われている言葉使いや介助方法等を話し合い意見交換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナウイルスの影響により各種外部研修が中止の中、ユニット会議等で話し合い、職員全員が理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	計画作成担当者が個々に合わせ解りやすく説明し、疑問点などについて確認しながら理解・納得して頂くことができるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常より利用者やご家族と職員が気兼ねなく話せる雰囲気作りをし、直接、意見・不満・苦情を伝えられる関係作りをしている。また、伝えられた内容を検討・改善策を話し合い報告を行っている。	利用者から運営に関しての要望は殆ど窥えませんが、家族からコロナ禍でのリモート会話等の希望を受け入れています。現在は玄関先で僅かな時間での面会を行い、利用者、家族の思いを把握する機会にもなっています。3ヵ月毎に各ユニットで通信を作成し、個人の状況や写真を掲載し、暮らしぶりを伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、職員と気軽に話せる環境を整え対応している。職員からも各会議などで意見を頂きながら反映させている。	代表者や管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、定期的な会議や都度の個人面談の場で意見や提案を聴き取り、運営やケア、レク活動等に生かしています。職員は各委員を担い、代表者は事業所内の現状を把握し、より良い職場環境作りに取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員から、シフトの希望を取り作成を行っている。日常より、働きやすい環境となるよう話し合いを行い、改善できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは随時参加している。参加後はユニット内で報告会を開催し、個々のレベルアップを図っている。また、施設に講師をお招きし、複数職員での研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部研修に参加する事により、他事業所との情報交換や交流を行っている。		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅や入所・入院先などへ入居前に必ず訪問し面談を行っている。不安なことなどについて聞き取り入居後の支援に活かしている。		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を行い、不安なことや要望などを伺っている。ご家族様からの要望などを把握し関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の思いを聞き取り、短期・長期の課題を見極め必要な支援の把握を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人一人を尊重し、個々の身体・精神状態に合わせ家事支援などの支援を行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子やご本人の思いなどをご家族へ伝えるように努めている。また、ご家族様の協力を得ながらご本人様の生活支援にあたっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご契約者様の了承を得ながら、友人なども気兼ねなく自由に来往することができる環境を整えている。	コロナ禍で面会や外出を自粛していますが、親族の訪問には玄関先で僅かな時間対応しています。利用者の要望で家族に電話を繋ぎ、会話を楽しんでいます。例年では家族の支援で、法事、墓参、外食、温泉など出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の身体状況に合わせて協力して行なえる手作業などを提供している。また、出来上がった手工芸品をユニット内に飾っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも近況を確認するなど、アフターケアについても配慮している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との交流を多く設け希望や意向について確認している。また、難しい場合には、ご家族にも協力していただきながら検討を行なっている。	意思疎通が可能な利用者が多く、オムツの不快感から布下着用を望む利用者の意思を尊重するなど、生き方や生活の仕方を押し量り、満足感に繋がるような支援に努めています。困難な場合は家族からの情報を判断材料として生かし検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様の生活史等を確認し、各職員が把握している。入居後にも聞き取りを行い、不安のない生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活と暮らしの経過表を記録し、各職員が業務に入る前に確認、職員間で情報の共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的・急変時に意見交換や課題の検討を行っている。また、普段よりご家族の意見や要望についても聞き取りを行い反映し作成している。	利用者個々の担当職員が中心となり、モニタリングで得た情報を基に職員間で協議、検討し、家族や医療関係者等の意見を反映させて、本人主体の介護計画を作成しています。3～6カ月の定期のほか、変化時に応じて作成しています。計画に対しての実践や利用者の何気ない言動は日々の記録で確認し、次計画の作成に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の経過表に入居者様の状況や訴えなどを記録し、職員間で情報の共有を図っている。また、介護計画書の見直しや評価も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物などの送迎、付添支援を行っている。また、訪問販売や訪問理容等の受け入れも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの影響により、地域の児童館・ボランティアの受け入れは自粛しているが、町内会の花壇整備等の野外で蜜にならない活動には参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や往診体制を整え、緊急時には24時間の連絡体制をとっている。	主治医は本人、家族の意向を尊重しています。殆どの利用者は、協力医療機関の月2回の往診を受けており、従前からのかかりつけ医や専門医への外来受診は家族と職員で支援しています。看護師職員を配置し、医師や職員と連携して利用者の健康管理に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯看護師が入居者様の体調等を把握し、主治医へ報告や相談を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、担当看護師との情報提供を行い、日常生活の中での留意点について確認している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居者様やご家族の希望など、心身状況を踏まえながら主治医を含めて話し合いの場を設け、定期的に確認も行っている。	事業所は終末期のあり方について、本人、家族の意向を重視しており、重度化の指針と共に看取り指針を作成し、詳細なターミナルケアへの対応や準備を記載した書類を丁寧に説明し同意を得ています。重篤時には望む終末期の過ごし方を再確認し、家族、医師、看護師、介護職員を交えて方針を共有し、チームとなりケアに臨んでいます。事業所は多くの看取り経験があり、利用者、家族の信頼に繋がっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な実施はないが、急変時には看護師との連携を図っている。また、24時間対応できる連絡体制を整えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウイルスの影響により年に1~2回の消防職員立会いのもとでの訓練は実施できていないが、隔月での自主避難訓練は重点的にしている。	今年度はコロナ禍のため、各ユニットで2ヵ月毎に夜間想定火災避難の自主訓練を実施しています。防火管理者に加え、防災管理者資格取得を予定しており、災害時対策強化を図っています。災害時備蓄品も確保しています。	災害時対策の強化を示していますので、様々な自然災害を想定したシミュレーションや訓練と共に、入浴時や排泄時などのケア場面を想定した訓練も重ねて実施することを期待します。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対して尊敬の念を持ち、一人ひとりを大切に思い、性格やプライドに留意した言葉掛けを行なっている。	職員は新人研修や接遇研修でケアの基本を学んでおり、特に気になる言葉遣いに関しては、都度、代表者、管理者が指導しています。名前に「さん」付けを基本に、申し送り時では利用者を部屋番号で表して配慮するなど工夫しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、希望や要望など伺い実行できるような支援に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりの希望を確認し、体力や体調に考慮しながら工作や家事援助等の提供を行なっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り洋服は自ら選び着ていただいている。また、決められないような場合は選んでもいただくことができるように支援を行なっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、入居者様の好みや調理可能な品を考え活動提供を行なっている。片付けも可能な限りお手伝いしていただいている。	日常食の献立と食材は業者に委託していますが、メニューをアレンジしたり、行事食や誕生会では利用者の希望を取り入れて職員が準備しています。おやつレクや調理レクでは畑の野菜も活用して共に一連の調理作業を楽しみ、利用者が達成感や美味しく食べた満足感を得られるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の咀嚼や嚥下状態に合わせた食事形態の提供を行なっている。また、1日の水分摂取量を細目に記入、把握しながら提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が入居者様に声掛けをし毎食後行っている。その際に口腔内の状態を把握し、歯科医師との連携を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の健康状態や生活リズムに合わせて定期・不定期に排泄誘導を促している。また、一部排泄介助も行っている。	利用者毎の排泄パターンを職員が理解し、習慣を生かしながら、立位可能な場合にはトイレでの排泄を基本とし、自立に向け声掛け誘導を行っています。夜間は安全面を考慮し、ポータブルトイレの使用やベット上でのオムツ交換を行っています。本人の気持ちを尊重しながら、衛生用品や布下着の着用を選択しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取に留意し、声掛けを行なっているが、改善がなければ医師に相談し排便コントロールを行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	定期的な入浴を提供し、お話を傾聴しながら楽しく行っている。	利用者の体調に配慮しながら、週2回以上を目安に入浴の機会を設けています。必要に応じてシャワー浴や足浴も行い清潔保持に努めています。1対1の入浴では、話しや歌を楽しみ、入浴剤やかけ流しの湯でゆっくりと温まり、寛ぎの時間となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムに合わせて、休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の目的や副作用等の把握をしている。服薬管理マニュアルに沿って支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	針仕事や屋外の環境整備、調理活動などへ楽しみなが参加されており、気分転換を図ることができるように支援を行なっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により外出行事を自粛しているが、お天気の良い日には施設周辺の散歩を行っている。	コロナ禍の影響で外出を自粛しており、敷地内の散歩、畑や花壇の草取り、水遣りで外気浴や気分転換を図っています。気候の良い時期に中庭で焼肉を楽しみ、ドライブで桜や紅葉を見物して季節感を味わっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等を考慮して、ご家族様の了承のもと、施設にて管理している。買い物や外出の際には一定額を持参して買い物を楽しまれている。また、ご自身で少額を管理されている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本施設の電話をお貸しする形で対応している。また、ご自身で携帯電話を所持されている方もいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	暖房、エアコンで湿度や温度管理を行なっている。ベランダからは花壇に植えられた花も観賞できる。室内の壁には季節に合わせた飾りつけを行なっている。	団欒の場であるリビングはゆったりとしていて、床暖房、エアコン、空気清浄機が設置され、温・湿度管理や除菌・脱臭効果で空気の質を高め、快適な空間を保っています。季節を感じさせるクリスマスグッズや利用者との共同作品、スナップ写真が飾られ、利用者の作品展示コーナーも用意して、家庭的な雰囲気の中、活動意欲を持たせる工夫も窺えて、心地良い居場所となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気兼ねなく話ができる入居者様同士の席を設けるなどし、個々に合わせた活動提供ができています。また、全員の身体状況を考慮しながら最適な席替えを行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来る限り使い慣れた物を持参していただくように説明している。お仏壇等を設置されている方もいる。	居室にはクローゼットが設置され十分な収納力があります。利用者は生活に必要な家具、調度品、ペット、仏壇等を持ち込み、絵画、家族写真、自作品などを飾り、趣味の編み物や裁縫の道具も揃えて暮らし易い環境を整えています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、食席等に解りやすく表示板を設置し、自立した生活が送れるように心がけている。			